進化する老舗へ 新ブランド戦略

これが120年を超えるたゆまざる研鑽のなせる技なのだろう。㈱市村工務店研修センター2階の資料館。目の前に法隆寺夢殿、金閣寺、浄土真宗本堂、羽黒山五重塔、仁王門、茶室が並ぶ。大きさ以外は本物同様の工法で精緻に再現された〝建造物群〟に圧倒される。手前には大事に使われたノミ、鉋（かんな）、鋸（のこぎり）、墨壺、差金の大工道具。「仕事の成果は作品である。造ったものには必ず魂を入れよ」（社員心得十訓）。3代目社長故市村健一氏が残した精神が伝わる。こうした伝統を踏まえて、4代目市村清勝代表取締役は今、「進化する老舗」、「最高のものをつくろう」をスローガンに掲げ、新たなブランド戦略に取り組んでいる。その目的などについて聞いた。

圧巻、歴史的建築物と工具類

―始めに市村家のルーツ、創業と歴史についてうかがいます。

市村代表取締役　祖先は長崎県の大名大村藩主の3男大村純武（すみたけ）。豊臣秀吉のキリシタン弾圧を逃れるため、姓を大村から市村に変え、一時京都に身を隠したのち、部下数十人を連れて流浪の末、最上川を遡って、出羽国相模村根際（現・山辺町）に落ち着いたとされております。1600年前後、最上義光時代です。

1892（明治25）年、本家筋の次男市村健次郎が、宮大工の修業を積み、30歳のときに独立して創業。叔父、兄と協力して仙台や福島に出向いて寺社仏閣を建築し、今日の基礎を築きました。2代目清治郎は多くの弟子を育て、山辺町のオリエンタルカーペット本社社屋、工場を自ら道具を握り建てました。

3代目の父健一は伝統技術の継承と、「事業は人である。立派な人材なくして、立派な建造物は造れない」との信念で、人づくりに情熱を注ぎ、1991（平成3）年に資料館を開設しました。当社が保存修理工事を請け負った国宝羽黒山五重塔をはじめ、すべての職人の技術を結集して歴史的建築物のミニチュアを造りました。中でも羽黒山五重塔は職人延べ500人、1千万円以上の費用をかけた力作です。

社員1人ひとりの意識を改革

―現在、社を挙げて「ブランド戦略」に取り組んでいます。その背景と目的は。

市村代表取締役　父は「その時、その時代の千変万化の現象に即応し健全経営を旨とせよ」という言葉も残しておりますが、社会（生活様式）は、かつて経験したことがないほど目まぐるしく変化。それに伴って顧客のニーズが多様化、細分化しています。住宅ひとつをとってみても、今の住宅は10年前と全く違うし、日々新たな技術、デザインが登場しています。大手のハウスメーカーとの差別化を追求するためには、これまで蓄積された技術、経験値とともに、変化への対応力、情報収集力、結束力、新鮮なイメージづくりが求められています。「進化する老舗」です。

同時に、私は心酔するアントニオ・ガウディの言葉を引用し、「最高のものをつくろう」をテーマとしています。それには社員1人ひとりの意識改革が欠かせません。ブランド戦略は、そのための第一歩で、企業や店、小さな町のブランディングを手掛けている村尾隆介氏と知り合ったことがきっかけで開始。戦略の入り口として、若手社員を中心としたチームを立ち上げ、ロゴマークを新たに作り、社員の作業用ユニホームを一新しました。

ロゴマークはネットで一般公募し、223点の応募の中から、意見を出し合いながら決定。作業用ユニホームは、これまでの「汚れが目立たないもの」などといった固定観念を排除し、「格好良く、街を歩いても違和感のないおしゃれ感覚」を打ち出しました。また、当社のイメージカラー「青色」を強調。パンフレット、クリアファイル、ボールペン、ポロシャツ、カーペット等々すべて青色で統一しています。ちなみに、私の着ているスーツ、ネクタイ、ワイシャツには青が入っています。

人材育成で地域社会に貢献

―戦略の一環として公開型社内大学「イチカレッジ」を開講しました。その経緯と目指すところは。

市村代表取締役　当社は昨年度、㈱きらやか銀行の「きらやか産業賞」を受賞しました。表彰理由に「人材育成に力を注いできた」という記述があり、当初、いただいた助成金を社員教育に活用しよう、と考えたのですが、「自社に関わる人を含め、地域の方々にも学ぶ場を」と決断しました。「山形、東北をちょっと明るくする、カジュアルな〝みんなの学び舎〟をコンセプトに、今期の統一テーマは「接点力アップ」です。

講師陣は村尾氏をはじめカメラマン、フリーアナウンサー、婚活スペシャリスト、インテリアコーディネーター、銀行マン、視覚障碍者と多士済々です。ブランディングチームが中心となってラインアップしました。企業には地域社会に貢献し、社員の生活を支え、生きがいとなる仕事を作ることが求められます。それが、企業の継続につながり、若い社員を育てることになります。「イチカレッジ」を通じて受講者、社員が、試行錯誤しながらも、やりがいある仕事に向かって、共に成長していきたいと考えています。

青で統一された「イチカレッジ」会場（上）とブランディングチーム

（写真上）研修センター2階の資料館には法隆寺夢殿、金閣寺等のミニチュアと大工道具が並べられている。（写真下）羽黒山五重塔と市村代表取締役

㈱市村工務店　創業明治25年。1959（昭和34）年株式会社に。代表取締役市村清勝氏（山形商工会議所常議員・建設部会副部会長）。資本金8千万円。本社・山形市久保田3・11・12。☎644・6878。